

【事業報告】

事業の概要

<公益目的事業>

I. 社会経済史・経営史関係

1. 当文庫の紀要である『三井文庫論叢』の第57号（2023年）を刊行した。
2. 研究員各自のテーマに沿って社会経済史・経営史にかかわる研究を進めた。また、三井文庫主催の研究会の開催、外部の学会・研究会等への参加、共同研究の主催、外部機関主催共同研究への参加などをおこなった。
3. 科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金の交付（4件）を受け研究を進めた。
4. 三井文庫史料叢書「三井大坂両替店『聞書』3」の刊行に向けて原稿の修正を進めた。
5. 三井関係資料の調査・収集は、新型コロナウイルス感染症流行の影響により休止した。
6. 閲覧業務は、新型コロナウイルス感染症への対応のため、昨年度に引き続き完全予約制・閲覧枠制限のもとで実施した。
7. 資料のデジタルアーカイブ構築（デジタル画像による公開、劣化対策並びに災害等に備えたバックアップ作成）のために所蔵資料のデジタルスキニング等によるデジタル複製画像の作成を進めた。
8. 所蔵資料分類目録の整備および所蔵史料データベースの整備を進めた。
9. 書庫内の資料保存環境整備を進めた。
10. 公的諸機関（地方自治体史編纂等）の資料調査、賛助会社等の広報活動・資料保存・社史編纂、報道関係の取材などに協力した。
11. 三井の歴史に関する講演（対面・オンライン）をおこなった。
12. 関係会社、資料保存関係者などの三井文庫見学を受け入れた。

II. 文化史・美術館関連事業

A. 文化史関係（資料の保管・整理・研究事業）

1. 2021年12月に、三井不動産株式会社設立80周年記念事業として三井文庫が1億円の寄付を受け、そのうち美術館として5千万円の予算のもとに①文化財の保存と継承＝収蔵品のデータベース化。②インターネットで配信する映像制作。③三井の文化と社会貢献に関する出版事業。④学芸研究室図書保管スペース確保事業。⑤カフェ・ショップリニューアルの5項目の内、今年度は以下の事業を継続して実施した。

(1) 収蔵品のデータベース化

- ① 主な収蔵品のデジタル撮影と、既存のポジフィルムのスキニング・データ化。

- ② 美術館収蔵品のなかから約1,000点を選び、当館ホームページ上で公開するためのデータベース作成作業。
- (2) 映像資料の再編集とインターネットでの公開・配信
 - ①映像ルームで放映している映像三本について再編集・修正を行い、放映を継続している。「三井家の歴史と文化」「三井記念美術館」は音声・文字などを再編集し、「茶の湯一碗の茶」については映像を一部修正した。
 - ②美術館のホームページ上に「オンラインコンテンツ」の項目を設け、①で再編集・修正した映像のうち「三井家の歴史と文化」「三井記念美術館」の公開を開始した。
 - ③YouTubeに「三井記念美術館 公式チャンネル」を開設し、「三井家の歴史と文化」「三井記念美術館」の公開を開始した。
- (3) 三井の文化と社会貢献に関する出版事業として、『三井家伝世の至宝に関する文化史的考察』を発刊した。
- 2. 『三井美術文化史論集 第17号』を発刊した。
- 3. 国宝の刀剣1件について、自費による修理を文化庁に申請し、承諾を得て修理を終えた。
- 4. 文化財保護法第53条の規定に基づく公開承認施設として、2019年9月17日から2024年9月16日までの5年間、公開承認施設として認定中。
- 5. 文化史資料の整理・調査・研究を行い、論文・解説の執筆、研究誌への投稿、各種学会・シンポジウムへの出席、他館・個人所蔵家等への資料調査などの活動を行った。
- 6. 他館における展覧会等に所蔵文化史資料を出品し、学術文化の振興に寄与した。

B. 三井記念美術館関係（資料の公開事業）

- 1. 新型コロナウイルス感染症対策に関しては、2023年3月13日から実施のマスクの自由化、同5月8日から実施の5類化移行などの政府動向をにらみつつ順次緩和を進め、おおむねコロナ前の平時に戻しての運営となったが、年度を通してコロナ感染の完全収束には至らなかったため、検温・消毒・マスク着用の協力要請やスタッフのマスク着用は継続実施した。継続した対策は以下の通り。
 - (1) 来館者に対し、マスク着用の協力依頼。入館時の検温、手指の消毒の協力依頼。
 - (2) 講演会、ワークショップ等の人数制限。
 - (3) 展示室が密になることを避けるための、必要に応じた在館者数の入館制限。
 - (4) 職員のマスク着用。
- 2. 今年度は、下記5回の展覧会を開催し、2023年4月1日から2024年3月31日までに合計

137,764人が入館した。2005年10月8日の開館以来の累計入館者数は2,654,173人となった。

(1) 「三井家のおひなさま 特集展示 近年の寄贈品—絵画・工芸・人形など—」

(前年度より引き続き開催：2023年2月11日～4月2日) 4月の入館者数 1,102人

(2) NHK大河ドラマ特別展「どうする家康」

(2023年4月15日～6月11日) 入館者数 35,958人

(3) 越後屋開業350年記念特別展「三井高利と越後屋—三井家創業期の事業と文化—」

(2023年6月28日～8月31日) 入館者数 18,361人

(4) 特別展「超絶技巧、未来へ！明治工芸とそのDNA」

(2023年9月12日～11月26日) 入館者数 52,746人

(5) 「国宝 雪松図と能面×能の意匠 特集展示 新寄贈能面」

(2023年12月8日～2024年1月27日) 入館者数 13,149人

(6) 「三井家のおひなさま 特別展示 丸平文庫所蔵 ^{みやこ}京のひなかざり」

(2024年2月10日～4月7日) 入館者数 16,448人(3月31日現在)

Ⅲ. 松の茶屋保存公開事業

今年度は、倒木の伐採にとどめ改修は見送った。

「公開」に関しては、2023年12月12日に箱根町が主催する箱根探訪会において「松の茶屋探訪会」を開催し、午前10名、午後8名、計18名の参加者を得て見学会を実施した。

<収益事業>

I. 不動産賃貸事業

三井花桐ビルは、現在は満室となっている。今年度は空調室内機フィルター交換、全熱交換機給排気ファンブリー交換、事務室給排気ファン更新などを実施したほかは、毎年実施している空調機の加湿器メンテナンスを実施した。

<事務局関係>

I. 役員会・役員人事

2023年6月15日に開催された定時評議員会をもって理事および監事の全員が任期満了となるため、改めてその選任を諮り、新たに細谷敏幸氏（株三越伊勢丹ホールディングス代表執行役社長CEO）が赤松憲理事の後任として、また江頭敏明氏（三井住友海上火災保険(株)特別顧問）が井口武雄監事の後任としてそれぞれ選任された（役職名は当時）。

また、吉沢勝評議員から辞任の申出があったため、2023年9月15日に決議の省略の方式で

開催された臨時評議員会において座間康氏（富士フイルムホールディングス(株) 執行役員）が後任として選任された。

<三井グループ350周年記念事業>

2023年度は、80,400,000円の寄附金をいただき、以下の事業を実施した。

1. 社会経済史研究室所蔵の史料のデジタル化
2. デジタル化のプラットフォーム・特設webサイトの制作
3. 越後屋開業350周年記念特別展「三井高利と越後屋—三井家創業期の事業と文化—」の開催

なお、上記1及び2は2027年度までの継続事業、3は2023年度に実施完了した事業である。